

想いを形に オンリーワンのオーダー家具

シリーズ まち・ひと・しごと # 29
手作り家具工房「木歎坊」 山上 正晃さん

里山の木々に囲まれた、のどかな場所「木歎坊」という工房があります。無垢材や作業道具が並ぶ工房の中では、心地よい作業音を響かせながら、一人の家具職人さんが作業に取り組みれています。

今回は、利根町押戸で、無垢の木を使い、一人ひとりのニーズを最大限に生かした、「オーダー家具」の製作をしている、山上正晃さん（54）にお話を伺いました。

自分の道に生きる

山上さんは大学を卒業後、実家のある神奈川県で、ご家族が経営する学習塾の講師をされていました。講師の仕事にやりがいを感じながらも、30歳を迎えるころ「親の作った道ではない、自分の道に進みたい。一人で完結できる仕事になりたい」という思いを抱くようになったそうです。

ちょうどそのころ、脱サラをして工房をもつ「自分スタイル」が始め「そんな生き方もあるんだ」と気づかされたという山上さん。

「元々、木が好きで、モノづくりに興味がありました。日曜大工でテーブルを作ったら、その作業が楽しくて、これを仕事にしようと思いました」と家具職人になるきっかけについて話してくれました。

家具職人としての新たな一歩

山上さんは、家具職人を目指し塾講師の仕事しながら、職業訓練校に1年間通い、製造の知識や技術について学びました。

卒業後、ほとんどの人が、家具工房などで修行を積むなか、「自分でやりたいという気持ちが強くなり、空き倉庫を借りて、すぐ独立しました。周りからの反対はありましたが、自分の意志は固かったですね。思い切りも良かったと思います」と笑って話してくれました。

独立した当時について「最初に、『家具屋を始めました』と知人や友人にダイレクトメールを送ったら、数人が製作の依頼をしてくれたんです。要望に沿って、家具一つ一つに思い込めて作りました。

注文してくれた人も喜んでくれたんですけど、その家具を見た人も気に入ってくれて『うちの家具も作ってよ』となったんです。

そういう縁が広がっていき、25年間家具の製作を続けることができました」と話す山上さん。

一つ一つの想いを込めて作った家具が、人と人との縁を繋げてくれたようです。

一生修行

今後について「オーダー家具は、デザインから製作まで携わるので楽しいです。仕事に終わりはありません。これから人との出会いを大切に、向上心を持ちながら、お客さんに喜んでいただける家具を作っていきたいです。

利根町にきて5年ですが、町の雰囲気良く、すぐ気に入っています。これからは、町にも貢献していきたいので、そのために何ができるのか考えていこうと思っています」と話す山上さん。

お客さんの想いを自分の手で形にする家具職人というお仕事。山上さんが手掛ける家具は、これからも多くの人を笑顔にしてくれるはずですよ。

オリジナルの家具を追求していく、山上さんのさらなる今後のご活躍を楽しみにしています。

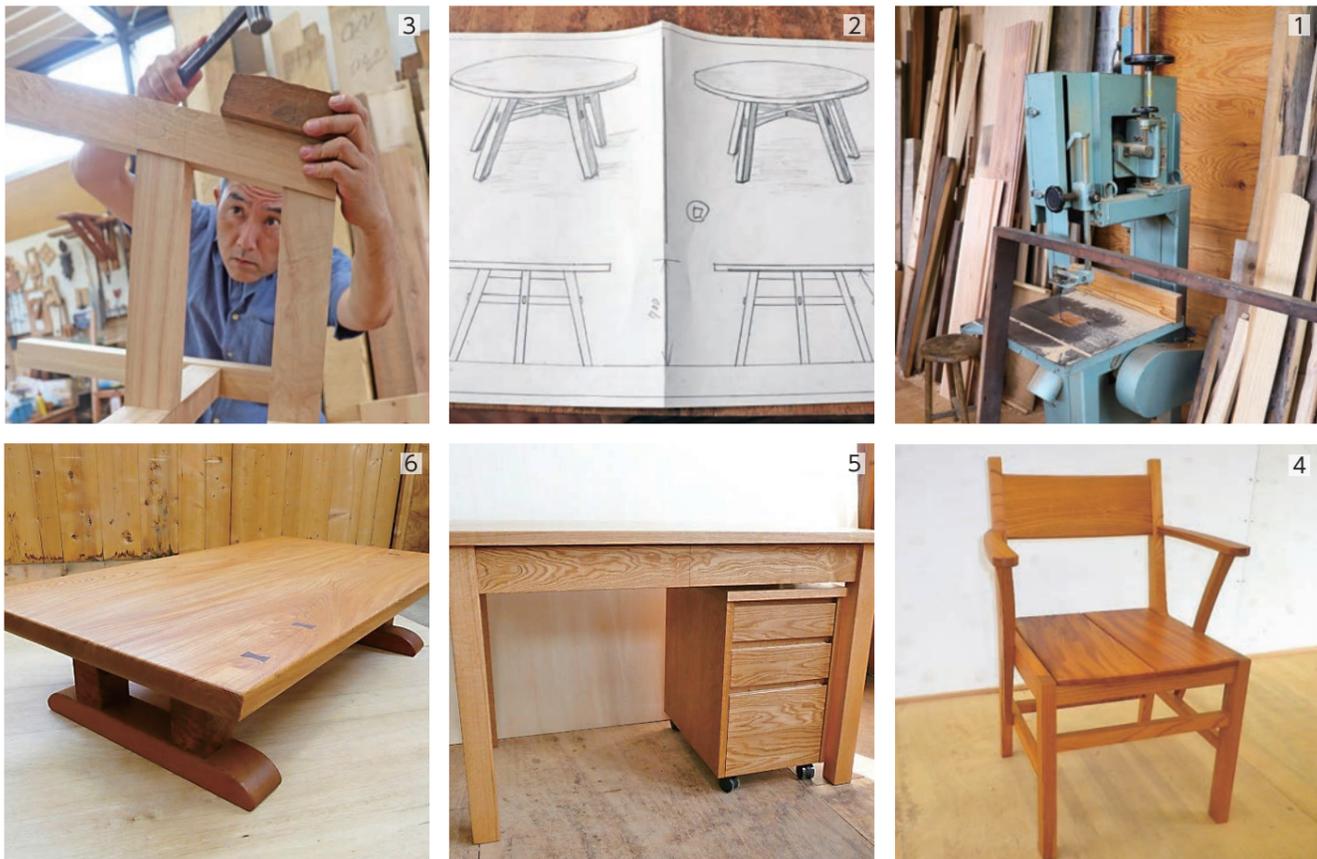
神奈川県を拠点に製作活動をしている山上さんは、知人を通じて利根町を知ったそうです。神奈川の工房が手狭になり、新たな拠点を探していたところ、たまたま、現在の土地が売りに出されていたため購入し、5年前に工房を構えました。

利根町に来てからも、家具の注文が途切れることはなく、町内からの依頼も少しずつ増えていったそうです。

家具の製作で大切にしていることについて何と「オーダー家具なのでお客さんとのコミュニケーションを大切にしています。顔を見て話をすることで、相手がどういうイメージの家具を求めているのかを的確に捉えることができます。

また、お客さんのご自宅に伺い、設置する場所や使っているインテリアなどを確認し、住まいや暮らしに合う家具の形を提案させていただくこともあります。納品した家具を見て、喜ぶお客さんの顔や、作った家具が長年使われているのを見るとやりがいを感じますね」と話してくださいました。

お客さんの要望を形にした、山上さんが手がけるオーダー家具は、部屋の居心地を良くすると共に、安らぎの場所にしてくれる、オンリーワンの家具なのかもしれません。



1. 無垢材や作業道具が数多く並んでいる工房内 2. お客さんの希望を基に図面を作成 3. 工房内には心地よい作業音が響き渡る 4～6. これまでに製作した家具の一例 4. 櫛のアームチェア 5. 櫛の学習机 6. 櫛の座卓オイル仕上げ



木歎坊 KIKANBO
 利根町押戸 1553 ☎ 090-3875-0442
 ✉ kikanbolor@yahoo.co.jp
 🌐 https://kikanboyamagami.com